

1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名	岡山県立高梁高等学校								
実践者等	奈須 遼渡	実践日	令和2年12月						
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	大学入学共通テストに向けたマーク演習 (理科・化学)								
対象生徒 (学年等)	3年								
単 元 名 (教科・科目の場合のみ)									
使用したアプリ等	Forms (テスト機能)、Classroom								
実践の概要 (ねらい等)	演習問題の正誤を即時フィードバック 生徒の実態を把握した解説や講評が可能								
実践の内容									
<p>(1) 授業前の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> Forms のテスト機能を活用し、設問番号と正答および配点を設定しておく。 <p>(2) 規定時間で生徒に問題演習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、化学なら 60 分間、化学基礎なら 30 分間ではあるが、授業時間の関係で問題数を減らして、解答時間を短くすることも考えられる。 生徒には、問題冊子に自身の解答番号をチェックさせ、適当なマークシートを配布してマークもさせる (本番通りのことは行う)。 <p>(3) 解答終了に合わせて Classroom で採点用フォームを配信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒は Forms から自身の解答番号を入力し送信する。 送信すると同時に、各設問の正誤と得点を確認できる。 <p>(4) 前方スクリーンに教師用画面をミラーリングする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師用画面では、平均点、最高点、最低点のほか、設問ごとの正答率や選択肢ごとの度数など、かなり詳細な分析ができる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>第3問 正解 16/48 件</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td>平均</td> <td>14.81/50 ポイント</td> </tr> <tr> <td>中央値</td> <td>13/50 ポイント</td> </tr> <tr> <td>範囲</td> <td>3~26 ポイント</td> </tr> </table> <p>合計点の分布</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>行 1: 11</p> </div> </div> <p>(5) 正答率を参考にしながら、解説を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> Forms の集計結果を参照し、正答率が 25%~50%あたりの設問を中心に解説を行うことで、限られた時間でより効果的な解説をすることができる。 正答率が高いと予想していた問題の正答率が高かった⇒評価する 正答率が低いと予想していた問題の正答率が高かった⇒評価する 正答率が高いと予想していた問題の正答率が低かった⇒要チェック <p>と、それぞれ根拠を示して指導することが可能。</p>				平均	14.81/50 ポイント	中央値	13/50 ポイント	範囲	3~26 ポイント
平均	14.81/50 ポイント								
中央値	13/50 ポイント								
範囲	3~26 ポイント								
参考となる HP 等									